



## 2022年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月16日

上場会社名 テスホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5074 URL <https://www.tess-hd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 石脇 秀夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 管理本部長 (氏名) 山本 一樹 TEL 06-6308-2794  
 四半期報告書提出予定日 2022年5月16日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2022年6月期第3四半期の連結業績（2021年7月1日～2022年3月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	26,708	3.7	4,825	55.2	4,374	61.1	2,796	72.2
2021年6月期第3四半期	25,743	—	3,108	—	2,715	—	1,623	—

（注）包括利益 2022年6月期第3四半期 2,956百万円（62.5%） 2021年6月期第3四半期 1,819百万円（—%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第3四半期	80.13	79.03
2021年6月期第3四半期	62.69	—

（注）当社は、2021年2月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第3四半期	93,132	25,161	27.0
2021年6月期	100,724	22,813	22.6

（参考）自己資本 2022年6月期第3四半期 25,121百万円 2021年6月期 22,734百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	0.00	—	20.52	20.52
2022年6月期	—	0.00	—	—	—
2022年6月期（予想）	—	—	—	21.00	21.00

（注）直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年6月期の連結業績予想（2021年7月1日～2022年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,500	0.7	5,000	13.7	4,400	14.7	2,500	25.6	71.63

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有  
2022年6月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

※ 注記事項

- （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 2社 （社名） 合同会社熊本錦グリーンパワー、株式会社伊万里グリーンパワー  
除外 1社 （社名） -
- （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有  
（注）詳細は、添付資料P.11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。
- （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無  
（注）詳細は、添付資料P.11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年6月期3Q	35,069,100株	2021年6月期	35,069,100株
② 期末自己株式数	2022年6月期3Q	130,070株	2021年6月期	219,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年6月期3Q	34,893,055株	2021年6月期3Q	25,899,100株

（注）当社は、2021年2月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。2021年6月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 6「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	11
(会計方針の変更) .....	11
(セグメント情報等) .....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、2020年初頭からの世界的な新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による影響から、企業収益や個人消費の二極化が見られるほか、世界的な資材価格やエネルギー価格の高騰、ウクライナ情勢の悪化等、依然として景気の先行きの見通しが難しい状況が続いております。

当社グループが事業を行うエネルギー業界においては、2015年の国連による持続可能な開発目標(SDGs)(※1)の提唱や、パリ協定(※2)締結を契機に、引き続き世界的にエネルギーの脱炭素化に向けた取り組みが加速しております。日本においても、2021年10月に閣議決定された第6次エネルギー基本計画(※3)では、2050年カーボンニュートラルの実現と、2030年度の新たな温室効果ガス排出削減目標(2013年度比から46%削減)の達成に向けたエネルギー政策の道筋が示されました。徹底した省エネルギーの更なる追及が求められると共に、2030年には国内電源構成に占める再生可能エネルギーの割合を36~38%程度(2019年度は18%)にする目標が掲げられております。

このような外部環境の中、当社グループは、「Total Energy Saving & Solution」の経営理念のもと、「再生可能エネルギーの主力電源化」「省エネルギーの徹底」及び「エネルギーのスマート化」の3つの事業領域に注力しながら事業を展開しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は26,708百万円(前年同期比3.7%増)、営業利益は4,825百万円(前年同期比55.2%増)、経常利益は4,374百万円(前年同期比61.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,796百万円(前年同期比72.2%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次の通りであります。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	エンジニアリング事業	エネルギーサブライ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	625	10,726	11,352	—	11,352
一定の期間にわたり移転される財	12,585	2,770	15,355	—	15,355
顧客との契約から生じる収益	13,211	13,497	26,708	—	26,708
外部顧客への売上高	13,211	13,497	26,708	—	26,708
セグメント間の内部売上高 又は振替高	618	—	618	△618	—
計	13,829	13,497	27,326	△618	26,708
セグメント利益	2,332	2,286	4,619	206	4,825

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去及び全社費用が含まれています。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 調整額には、主としてセグメント間取引消去額を表示しております。

なお、セグメント間取引には、当社の連結子会社であるテス・エンジニアリング株式会社が、同じく当社の連結子会社であるプライムソーラー3合同会社に向けて行った「TESS茨城桜川ソーラー発電所(茨城県桜川市、発電容量約1.4MW)」及び「TESS兵庫朝来ソーラー発電所(兵庫県朝来市、発電容量約0.3MW)」のEPC等が含まれております。また、当社の連結子会社であるテス・エンジニアリング株式会社が、同じく当社の連結子会社である合同会社熊本錦グリーンパワーに向けて行った「TESS錦町木上西バイオマス発電所(熊本県球磨郡錦町、発電容量約2.0MW)」のEPC等が含まれております。

1) エンジニアリング事業

(受託型)

省エネルギー系設備における顧客の省エネ、コスト低減、環境対策等のニーズに応じたエンジニアリング、再生可能エネルギー系設備の一部における、顧客取得のFIT認定(※4)を活用した発電施設や自家消費発電設備のエンジニアリング等、顧客からEPC(Engineering:設計、Procurement:調達及びConstruction:施工)を受託する形態であります。

当第3四半期連結累計期間においては、脱炭素化への取り組み、BCP対策としての安定電源確保、使用エネルギ

一の効率化による省エネルギー、再生可能エネルギーへの取り組み等、顧客ニーズに応じたソリューション提案を行った結果、コージェネレーションシステム（※5）及び自家用発電設備のEPC、LNGサテライト設備等の燃料転換設備（※6）のEPC、顧客企業のユーティリティ設備（※7）に係るEPC、国内の産業用太陽光発電システムのEPC、バイオマス発電システムのEPCによる売上を一定の期間にわたり収益を認識する方法に従って計上しております。

なお、これらEPCの内、コージェネレーションシステム及び自家用発電設備のEPC 5件（発電容量約13.7MW）、LNGサテライト設備等の燃料転換設備のEPC 1件、顧客企業のユーティリティ設備に係るEPC 2件、国内の産業用太陽光発電システムのEPC 9件（発電容量合計約14.3MW）につきましては、当第3四半期連結累計期間において工事が完了しております。

（開発型）

当社グループが用地取得（又は賃借）、許認可及び権利等の取得、EPC等を主体的に関与し、開発に関する一連のソリューションを顧客に提供する形態であります。

当第3四半期連結累計期間においては、固定価格買取制度（FIT制度）（※8）を活用した開発型案件である福岡県京都郡みやこ町における大型太陽光発電所（発電容量約67.0MW（北発電所約23.2MW、南発電所約43.8MW）、2023年6月期に完工予定）のEPCが順調に進捗したことによる売上7,102百万円を計上しております。なお、本EPCの内、北発電所につきましては、第1四半期連結会計期間において工事が完了しております。

以上の結果、エンジニアリング事業につきましては、売上高は13,829百万円（前年同期比29.5%減）、セグメント利益は2,332百万円（前年同期比101.2%増）となりました。

2) エネルギーサプライ事業

（再生可能エネルギー発電所の所有・運営・売電）

当社グループでは、当第3四半期連結会計期間末において、日本全国に76件、発電容量合計約212.0MW（内、オンサイトPPAモデル（※9）7件、約4.8MW）の再生可能エネルギー発電所の所有・運営・売電を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、再生可能エネルギーのFIT制度を利用するもの、利用しないもの共に、運転開始済みの当社グループの再生可能エネルギー発電所における発電量が順調に推移し、それに伴う売電収入による売上を計上しております。なお、当該売電収入による売上の中には、福岡県京都郡みやこ町における大型太陽光発電所に関して、北発電所をSPC（合同会社福岡みやこソーラーパワー）へ引渡しを行うまでの売電収入相当額154百万円が工期短縮に伴う開発報酬として含まれております。

当第3四半期連結累計期間においては、FIT制度を利用するものとしては、当社グループで開発及びEPCを行った「TESS茨城桜川ソーラー発電所（茨城県桜川市、発電容量約1.4MW）」及び「TESS兵庫朝来ソーラー発電所（兵庫県朝来市、発電容量約0.3MW）」と、新たに取得した稼働済み発電所（セカンダリ案件）である「TESS香川善通寺ソーラー発電所（香川県善通寺市、発電容量約0.4MW）」、「TESS福島東白川ソーラー発電所（福島県東白川郡塙町、発電容量約0.3MW）」及び「TESS秋田河辺ソーラー発電所（秋田県秋田市、発電容量約3.0MW）」の合計5件が稼働を開始しております。FIT制度を利用しないものとしては、停電時にも必要な電力を供給できる機能を有した自家消費型太陽光発電システムによるオンサイトPPAモデルを活用した電力供給サービスを4件開始しております。

〈当第3四半期連結累計期間に当社グループにおいて運転を開始したFIT制度を利用する再生可能エネルギー発電所〉

発電所名称	発電者名称	発電容量 (MW)	発電種別	固定買取価格 (1 kWhあたり) (円)	発電開始年月	発電所取得年月
TESS香川善通寺ソーラー発電所	プライムソーラー3 合同会社	0.4	太陽光発電	40	2014年3月	2021年10月
TESS福島東白川ソーラー発電所	プライムソーラー3 合同会社	0.3	太陽光発電	36	2015年6月	2021年12月
TESS茨城桜川ソーラー発電所	プライムソーラー3 合同会社	1.4	太陽光発電	36	2021年12月	—
TESS兵庫朝来ソーラー発電所	プライムソーラー3 合同会社	0.3	太陽光発電	21	2022年1月	—
TESS秋田河辺ソーラー発電所	プライムソーラー3 合同会社	3.0	太陽光発電	32	2018年1月	2022年2月

（注）発電容量はモジュールベース（太陽電池モジュール最大出力の和）の設備容量表記であります。

〈当第3四半期連結累計期間に当社グループにおいて運転を開始したFIT制度を利用しない再生可能エネルギー発電所〉

所在地	発電者名称	発電容量 (MW)	発電種別	供給開始年月
鳥取県米子市	テス・エンジニアリング株式会社	0.2	太陽光発電	2021年8月
広島県三原市	テス・エンジニアリング株式会社	0.4	太陽光発電	2022年2月
滋賀県甲賀市	テス・エンジニアリング株式会社	0.4	太陽光発電	2022年2月
静岡県駿東郡	テス・エンジニアリング株式会社	0.5	太陽光発電	2022年2月

(注) 発電容量はモジュールベース (太陽電池モジュール最大出力の和) の設備容量表記であります。

(オペレーション&メンテナンス (O&M) )

当第3四半期連結累計期間においては、メンテナンスサービス、オペレーションサービス、24時間遠隔監視サービス及びエネルギーマネジメントサービスが順調に推移したことから、オペレーション&メンテナンス (O&M) 全体としての売上は順調に推移いたしました。

(電気の小売供給)

当社グループは、北海道、東北、東京、中部、北陸、関西、中国、四国、九州の9電力エリアにて法人顧客向けに電気の小売供給を行っております。当第3四半期連結累計期間においては、既存顧客への供給を中心に売上は順調に推移いたしました。電力の調達については、第1四半期連結会計期間においては、夏季の卸電力市場の取引価格の高騰による影響を避けるため、相対取引による電力調達を十分に確保していたことから売上原価が増加いたしました。第2四半期連結会計期間においては、秋季の卸電力市場の取引価格が例年以上に高騰したことに加え、相対取引による電力調達価格も上昇したことから売上原価が増加いたしました。当第3四半期連結会計期間においては、燃料価格の高騰や冬季の電力需給の逼迫、2022年3月に発生した福島沖地震等による影響から卸電力市場の取引価格が高騰したことに加え、相対取引による電力調達価格も上昇したことから売上原価が増加いたしました。

ERAB (※10) サービスでは、一般送配電事業者が実施する調整力公募に15件採択されており、リソースアグリゲーター (※11) 及びアグリゲーションコーディネーター (※12) として調整力の抛出等による売上を計上しております。

(その他)

コージェネレーションシステムを運用する顧客に対して行う燃料供給による売上が順調に推移いたしました。また、2020年4月からは、日本国内のバイオマス発電所に向けたPKS (※13) 燃料販売を開始しており、当第3四半期連結累計期間においては当該燃料販売における売上579百万円を計上しております。

以上の結果、エネルギーサプライ事業につきましては、売上高は13,497百万円 (前年同期比11.4%減)、セグメント利益は2,286百万円 (前年同期比7.2%減) となりました。

なお、当社グループは「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」に記載しております。

(※1) 持続可能な開発目標 (SDGs) :

2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で発展途上国のみならず先進国自身が取り組むべき事項として掲げられた国際社会共通の目標であり、エネルギー、経済成長と雇用、気候変動等に対する取り組みをはじめとして計17の目標にて構成されております。

(※2) パリ協定 :

第21回気候変動枠組条約締約国会議 (COP21) にてCO2排出量に削減目標を定める温暖化対策の世界的枠組みとして日本を含め196の国々による合意に基づき2015年12月に採択された国際協定であります。日本は本協定に対して2030年までに2013年比で温室効果ガス排出量を26%削減することを目標として掲げております。

(※3) エネルギー基本計画 :

エネルギー政策基本法第12条に基づき制定される、エネルギーの需給に関する施策の長期的、総合的かつ計画的な推進を図るためのエネルギーの需給に関する基本的な計画のことであります。

(※4) FIT認定：

「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に規定される、経済産業大臣による再生可能エネルギー発電事業計画の認定をいいます。

(※5) コージェネレーションシステム (CGS : Co-Generation System)：

分散型エネルギーリソースの一つで、発電と同時に発生する熱を冷暖房や生産プロセスに利用する熱電併給システムのことをいいます。CHP : Combined Heat & Powerと呼称される場合もあります。

(※6) 燃料転換設備：

工場の熱源として利用する燃料を石油から天然ガスへ転換するための設備のことをいいます。

(※7) ユーティリティ設備：

工場の生産設備の稼働に必要な電気、蒸気、水、圧縮空気、燃料等を供給する設備のことをいいます。

(※8) 固定価格買取制度 (FIT制度)：

「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づき、太陽光、風力、バイオマス等の再生可能エネルギーで発電した電力を、電気事業者が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度であります。

(※9) オンサイトPPAモデル：

当事業におけるオンサイトPPAモデルとは、当社グループが発電事業者として、自家消費型太陽光発電所等の所有・維持管理等を行い、当該発電所等から発電された電力を需要家に供給する契約方式のことであります。

(※10) ERAB (Energy Resource Aggregation Business)：

DR (※14) やVPP (※15) を用いて、一般送配電事業者、小売電気事業者、需要家、再生可能エネルギー発電事業者といった取引先に対し、調整力、インバランス (※16) 回避、電力料金削減、出力抑制回避等の各種サービスを提供することをいいます。

(※11) リソースアグリゲーター：

需要家と需給調整契約を締結してエネルギーリソース制御を行う事業者のことであります。

(※12) アグリゲーションコーディネーター：

リソースアグリゲーターが制御した電力量を束ね、一般送配電事業者や小売電気事業者と直接電力取引を行う事業者のことをいいます。

(※13) PKS：

Palm Kernel Shellの略称で、パーム椰子の種からパーム油を搾油した後に残った椰子殻のことであります。

(※14) デマンドレスポンス (DR)：

需要家側エネルギーリソース (※17) の所有者若しくは第三者が、そのエネルギーリソースを制御することで、電力需要パターンを変化させることをいいます。

(※15) バーチャルパワープラント (VPP)：

IoT技術を活用して分散型エネルギーリソースを遠隔から統合制御し、1つの発電所のように機能させることによって、電力の需給バランスを調整することをいいます。

(※16) インバランス：

電気の小売供給において小売電気事業者が事前に策定した需要調達計画と実績の差分のことであります。

(※17) 需要家側エネルギーリソース：

需要家の受電点以下 (behind the meter) に接続されているエネルギーリソース (発電設備、蓄電設備、需要設備) を総称するものであります。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ11,663百万円減少し、38,477百万円となりました。主な要因は現金及び預金の減少3,213百万円、未成工事支出金の減少10,086百万円、前渡金の増加2,427百万円によるものです。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ4,070百万円増加し、54,654百万円となりました。主な要因は土地の増加812百万円、のれんの増加2,492百万円、関係会社株式の増加853百万円、機械装置及び運搬具の減少812百万円によるものです。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ9,156百万円減少し、21,168百万円となりました。主な要因は短期借入金の減少7,574百万円によるものです。

（固定負債）

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ783百万円減少し、46,801百万円となりました。主な要因は長期借入金の減少562百万円、リース債務の減少181百万円によるものです。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ2,347百万円増加し、25,161百万円となりました。主な要因は利益剰余金の増加2,259百万円によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年8月12日の「2021年6月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想を変更しております。

詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	26,036	22,822
受取手形及び売掛金	3,160	2,731
完成工事未収入金	2,908	—
契約資産	—	3,747
商品及び製品	273	417
仕掛品	51	54
未成工事支出金	10,214	127
不動産事業支出金	2,002	2,156
原材料及び貯蔵品	63	132
前渡金	3,090	5,517
その他	2,363	822
貸倒引当金	△25	△52
流動資産合計	50,140	38,477
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,850	3,879
減価償却累計額	△737	△899
減損損失累計額	△83	△89
建物及び構築物 (純額)	3,028	2,890
機械装置及び運搬具	39,362	40,277
減価償却累計額	△7,163	△8,889
減損損失累計額	△12	△13
機械装置及び運搬具 (純額)	32,187	31,375
工具、器具及び備品	222	227
減価償却累計額	△149	△169
工具、器具及び備品 (純額)	73	58
土地	4,001	4,813
リース資産	2,244	2,254
減価償却累計額	△1,045	△1,174
減損損失累計額	△29	△30
リース資産 (純額)	1,169	1,048
建設仮勘定	237	928
有形固定資産合計	40,697	41,114
無形固定資産		
のれん	—	2,492
その他	2,786	3,223
無形固定資産合計	2,786	5,715
投資その他の資産		
投資有価証券	1,029	914
関係会社株式	87	941
繰延税金資産	3,677	3,299
その他	2,375	2,727
貸倒引当金	△69	△58
投資その他の資産合計	7,100	7,824
固定資産合計	50,584	54,654
資産合計	100,724	93,132

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	782	1,265
工事未払金	1,543	1,058
短期借入金	19,258	11,683
1年内返済予定の長期借入金	5,324	3,896
リース債務	263	272
未払法人税等	1,164	425
未成工事受入金	480	—
契約負債	—	1,016
賞与引当金	195	100
契約損失引当金	22	17
完成工事補償引当金	26	11
その他	1,263	1,418
流動負債合計	30,325	21,168
固定負債		
長期借入金	43,804	43,242
リース債務	1,905	1,724
繰延税金負債	81	7
資産除去債務	1,415	1,464
契約損失引当金	38	61
退職給付に係る負債	257	281
その他	81	20
固定負債合計	47,585	46,801
負債合計	77,910	67,970
純資産の部		
株主資本		
資本金	1	1
資本剰余金	13,540	13,557
利益剰余金	9,431	11,690
自己株式	△0	△0
株主資本合計	22,973	25,249
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	3
繰延ヘッジ損益	△195	△139
為替換算調整勘定	△47	8
その他の包括利益累計額合計	△239	△127
非支配株主持分	79	39
純資産合計	22,813	25,161
負債純資産合計	100,724	93,132

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
売上高	25,743	26,708
売上原価	20,486	19,389
売上総利益	5,257	7,319
販売費及び一般管理費	2,148	2,493
営業利益	3,108	4,825
営業外収益		
受取利息	2	4
受取配当金	6	10
受取保険金	293	139
持分法による投資利益	8	15
保険解約返戻金	116	6
補助金収入	218	132
為替差益	10	67
その他	46	63
営業外収益合計	703	439
営業外費用		
支払利息	700	593
固定資産圧縮損	162	79
支払手数料	223	204
その他	10	12
営業外費用合計	1,097	890
経常利益	2,715	4,374
税金等調整前四半期純利益	2,715	4,374
法人税等	960	1,520
四半期純利益	1,754	2,853
非支配株主に帰属する四半期純利益	130	57
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,623	2,796

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	1,754	2,853
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	0
繰延ヘッジ損益	17	55
為替換算調整勘定	42	46
その他の包括利益合計	65	102
四半期包括利益	1,819	2,956
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,676	2,908
非支配株主に係る四半期包括利益	143	48

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項ありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項ありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

工事契約に関して、従来は工事の進捗部分について成果の確実性が認められる場合には工事進行基準によっておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の合理的な見積りが出来ない工事については、原価回収基準を適用しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,254百万円、売上原価は9,051百万円それぞれ減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ203百万円減少しております。

また、利益剰余金の当期首残高は178百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「完成工事未収入金」は、第1四半期連結会計期間より「契約資産」に含めて表示することとしました。また、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「未成工事受入金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年7月1日 至2021年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	エンジニアリング事業	エネルギーサプライ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,511	15,231	25,743	—	25,743
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,092	0	9,092	△9,092	—
計	19,604	15,232	34,836	△9,092	25,743
セグメント利益	1,159	2,464	3,624	△515	3,108

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去及び全社費用が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年7月1日 至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	エンジニアリング事業	エネルギーサプライ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	625	10,726	11,352	—	11,352
一定の期間にわたり移転される財	12,585	2,770	15,355	—	15,355
顧客との契約から生じる収益	13,211	13,497	26,708	—	26,708
外部顧客への売上高	13,211	13,497	26,708	—	26,708
セグメント間の内部売上高又は振替高	618	—	618	△618	—
計	13,829	13,497	27,326	△618	26,708
セグメント利益	2,332	2,286	4,619	206	4,825

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去及び全社費用が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「エンジニアリング事業」の売上高は9,254百万円、売上原価は9,051百万円、セグメント利益は203百万円減少しております。